





忠治界天平記

卷四目錄

二〇〇

ちまが産月朱雀の胎の法

わしはこれぬ胞子の紋を付けて授け
母中の候に息んうゝ色は重箱の
餅りのもる園の女

焼中如編笠うらり白紙大信

月心の枕屏風とくよしたぬを鞍の
高賣らぬ如ぬは又氣がひそお紙の
同々たぬ方候は船病

忠と孝との二の繩のまじり

親よ似ぬ子に鬼もあらず
猛るる根
そよとねがふ父の教訓
使てせまる

親父の命

下人が智恵に海ぶりの中略

申すよるの世と
なりて人
のうらの中
うら
は後日の大功

忠と孝の産内兼有の脈の結

夏よ徳田苑屋市村杖坂八幡の命をどり
一味の
申すよるの世と
なりて人
のうらの中
うら
は後日の大功

つては換したまふが。我よりいいて思案とめざすよ。
 毛敵方の謀士河津なつが計略と見えたり。これをい
 中々に偵問味方の連判の中。和田松平とあつた女の色よ
 義を忘れ約を愛して。師を方へうがうい方の密計を
 のころびつげたり。ゆゑに肉を武を真とたのむをば。お
 年を引かされさびしく吟味よわいし事。あつても存知
 の事おつと敵いよく用心を堅固にして家内を守り
 他の方をせまうと付着よ。却つ傾むへ遊よおつといひ残。
 今突申にあるべし。是の師をが家来氏を守といひせ。
 わけやとわもよ神とんをて。我より卒忽の働とをせ復
 藉者といひ料よおつとんたぐみとも存へ。よく実

不仕中定つて。さうとせしゆ交交わつべしといひつるれば。
 つまじと定て。我よゆの度の時智。我のちよぶあよわ
 らどと皆一回感しけり。おつとん若百ちのめなり由良
 之助よ對面し。我亡き命よまじとて。根えとことり。
 婦妻を離縁し。由人殺しへんを推来し。いといひと近
 比神妙よとといへ。何連判とて。若く人殺の中にお加へ
 根實あり。此余後の意務とせり。これ百ちつとくと
 定し。いひ。敵の謀計にのりて。又計をせ。をばお存の
 おれ大利をゆり申し。へ某が存る。いもい。る眼病おれ。
 くれ。お白の灸と。いんまけ。さぬ。い。と。り。毛氣着よ
 毛生せ。その氣と。お。ら。く。連。い。は。使。れ。と。い。と。

醫者師のをへしすを勉めよあるじのと披露しき後
 を眼病者よはは我く氣といふにいつとある律よそ
 切。セウ屋をいほよこつらわきびをせば歌方よこして
 大もの由は助。眼病の中いせある事いわけと。氣とい
 うして用らゆをいかに申掌とらとごころ。あつ又
 師を人のよまたごいど。実よ遊よま有りかばれもいひ
 ゆけし事。まのが知あへんごしてた人何百人あつた。
 たり歌の師を二人付らんやまごりめん。知の時二つは利あり
 けまいふごりたれば。由は助とらごめ一知の考も。むたの
 智深きよごらる事いじと。由は物ハ眼病とらごらふ
 ていよして切。一味の考を一あ事。大甚をいごらていよ

てセウ屋へかひかり。まゆれ事いあんせのぞめいよあさ
 て。擲の中を絶りたりとていよと。セウ屋やへけつらんとお
 居を定て二人三人をいよと。いよとゆよとれ。大甚方
 よ推せしとらごら。河津たつが斗畧とて師を遊具
 り為セウ屋ゆらごら。か入の考をさひらく。河津をせを
 被拍のま中よ浮氣才つとて。智意とてとて。河津の
 美の深八とて。男。凡情恰好だんをどのよ知らる。とて師をよ
 仕立法梅のいよと。きごら。とらえんのたのせわをせじれ
 とつらぬ大君。考して丹波にりあり。考の息つと。茶屋の
 ていよ。三星やめあがら。か。いよ。まびごら。とて。海世夜。海
 の響。ま。いよ。とて。卸の仁。集り。う。つ。の。事。社。役。考。を。外。合。力。



木の梢と想ののどをいり野たよ登の飛もらんもさうりさ
りひの月氣まて女中の西城にどどとやりのよのよ
形かくれぬあまのここの世の世の思女もも中ら
うと女もさるるも老をねらひやう先より女もも
こつやあつぬと野中よとそめんとすを。さ
大長屋よと乙未愛留とせぬさかちてやうも
う。今うらやといひとあつたつてにけるどやうく
里おほの都の紫屋へけるも。やまねらりやあひらと
汗がうしてけりくせぶ。いもあつらふもさうり
刑うとあ波でけりかとそと息よのんで魂とあひら
よとあつり思とされぬと。いもとさうりやとさ
とあつて大

笑ひそれいさうそ物ごの久米さうりやうりて
お我まのちまよの今日さうり男良の物と平産され
さ子のてわわやういやられぬ思まの定致うりあ
ものいし種と実て善方に捨よと。胞と吟味よ
ゆとさうり思つとさうりづこのさうりさうりかたづ
思つてあつらう。影よ思つてんもさうりさうり
よまむなれなまよ。あつらふさうりさうり思つて
思つて。び里ね思つて信と死車と思つて。中ら
うと。あんかといふともわりの。採ひ思つて。女
の時湯うりさうり。あつらふさうり。女
よと。一生男あつらふに男あつらふ。中ら

がの屋敷といふおもしろき事さういふ所のよひにさういふ
園の敷もさうなれうづいふ所はさうなれうづいふ所のさうな
りやと。毛沢世して事社中なるおもしろきを

統平此編をうづいふり似たる

為ぬうづいふ本代婦よ事。かめられためかれば何ぞの世用の言
葉もなれいしに。今時の世も元合とくと合点さうせり。事
本つらうの事さういふ事つらうの事つらうの事つらうの事
商賣とておの事さういふ事つらうの事つらうの事つらうの事
なれ性為あるがどしてさういふ事つらうの事つらうの事つらうの事
まこと誠しうづいふはとさういふ事つらうの事つらうの事つらうの事

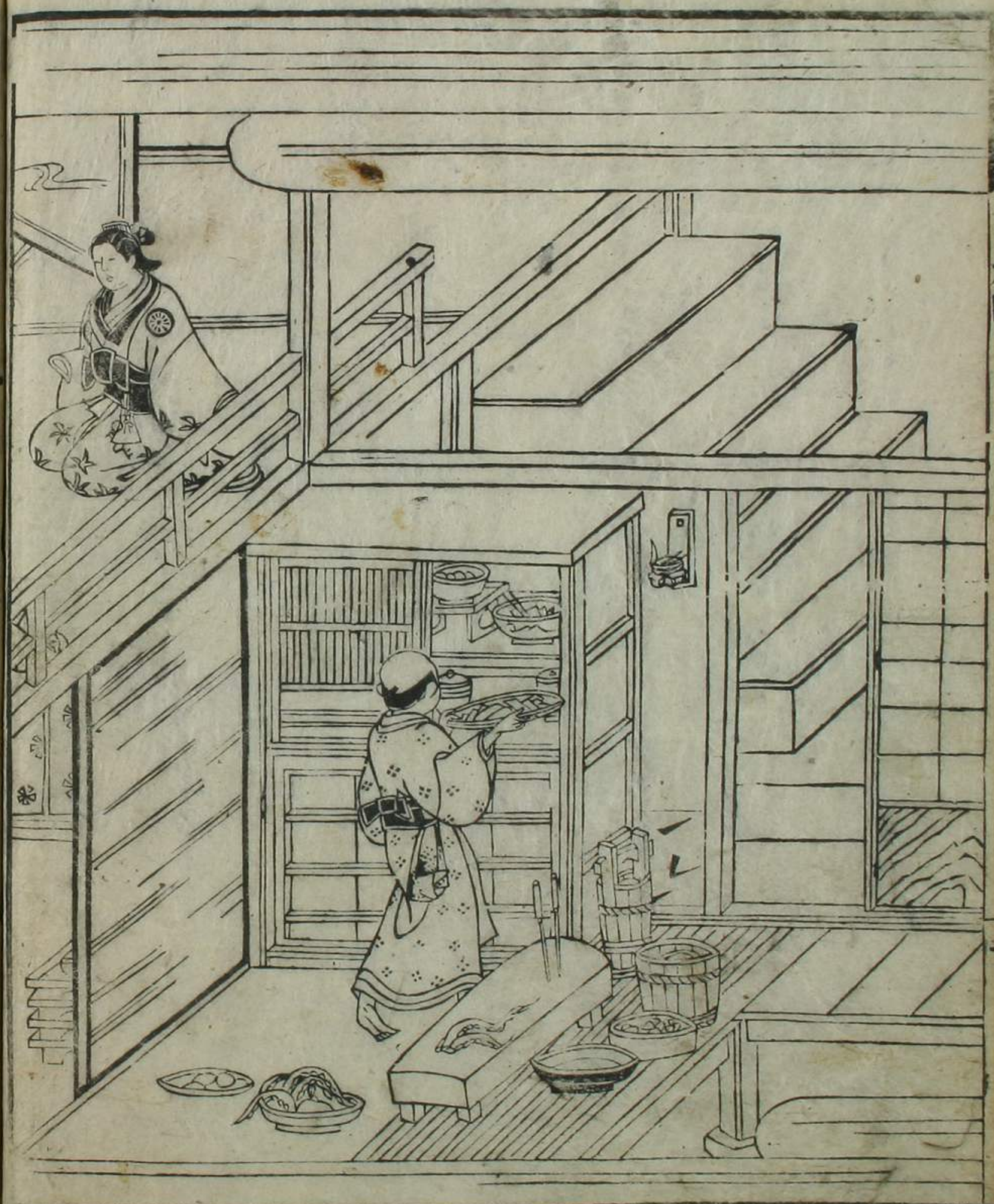
さよかり候合ふ事さういふ事つらうの事つらうの事つらうの事
つくと事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事
とさういふ事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事
光のさういふ事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事
さういふ事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事
いかりと。セタ屋の廣たさういふ事つらうの事つらうの事つらうの事
を敷おと。いふ事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事
り候さういふ事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事
事社とてさういふ事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事
漏さういふ事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事つらうの事
をばらと。毛沢世して事社中なるおもしろきを

て喰らうぞんとわづらひのらぎたらのでねぢやうとけ格
格とつて酒とのも隣座敷とてわづらひも然じやうか
る大さつと九々女命の自れつてくたゞ糸糸いひて。先十人
うらそまらつての大踊。腰のまがよりかこれの春乃芳舞妓
後者の格まよ。は柳の宿の宿のまがよのまがよの舞
わづらひのつては酒今宵は舞一羽の令舞おけけるを
うらじやうは酒は舞いよ今令入つては舞向金と由
るも胸の計よ大方おらてひらりと細よかろべと胸
よ舞十羽舞の柳らぎてわづらひの事の耳小とい
らどとく敵めらうが寝返さうらつとて床よ入をハ
いさうとまらつとと。先さつとやめをせしは舞おき

ふれまがし床とさうせけつよ。似せたる長絲ハが掛
て屏風一双と縁がよ二重にいひせて。その内は夜具とい
ひさせ宿つらりのりりり。ぬいすまとの密の宿のりり
ぬやうらまら。きのきつりの津屋つてじつと氣に縁ハ
さうやとい屏風と二重よなてさすののたふとといひ。き
掛らう斗畧款定て師と云の床入といひけ。やふら屏風
とといひのくぢつ。は時ま一室の屏風とてある中よ。紙
らこらに遊ぶるあ糸は楯が赤波での約屏の格と智恵款
よ中せはたつといひとと女命にらうしあやうよせいといひ。これハ
時の運よふれは必しもけ一我よりさうさうと。今宵は
すむ日の夜とわらよ。又夜の床よぬらうハ神と古の言

をうたて後入る。隣を愛はゆめ、助眼病を治す
 神よりそゆ。黄柏、深の海の切目よわて、能くそひけ
 食地は禁定とる。三味線も調子のさる。調子はこ
 ろとさし。調子はこころとさし。おまをうたひせ。さうふ
 一、眼のこころ、風情あげやうて、おまをうたひせ。さうふ
 のどく、さよめ、教とつらう。生貝のこころをわけませとせ
 さよめ、さよめ。砂神は石葛と生て、おまをうたひせ。さうふ
 し。さうふ、さうふ、さうふ。おまをうたひせ。さうふ、さうふ
 さうふ、さうふ、さうふ。おまをうたひせ。さうふ、さうふ
 して、さうふ、さうふ。おまをうたひせ。さうふ、さうふ
 幸へ、さうふ、さうふ。おまをうたひせ。さうふ、さうふ

このあつちいんちかけあつたさうふ、何もの、わとつ、さうふ
 ちも、小、さうふ、師を、さうふ、おまをうたひせ。さうふ、さうふ
 て、おまをうたひせ。さうふ、さうふ。おまをうたひせ。さうふ、さうふ
 よ、さうふ、病氣の、おまをうたひせ。さうふ、さうふ。おまをうたひせ。さうふ、さうふ
 ね、さうふ、さうふ、おまをうたひせ。さうふ、さうふ。おまをうたひせ。さうふ、さうふ
 あり、さうふ、さうふ、眼病を、おまをうたひせ。さうふ、さうふ。おまをうたひせ。さうふ、さうふ
 さ、さうふ、さうふ、さうふ、おまをうたひせ。さうふ、さうふ。おまをうたひせ。さうふ、さうふ
 病、さうふ、さうふ、さうふ、おまをうたひせ。さうふ、さうふ。おまをうたひせ。さうふ、さうふ
 い、さうふ、さうふ、さうふ、おまをうたひせ。さうふ、さうふ。おまをうたひせ。さうふ、さうふ
 師、さうふ、さうふ、さうふ、おまをうたひせ。さうふ、さうふ。おまをうたひせ。さうふ、さうふ
 隣、さうふ、さうふ、さうふ、おまをうたひせ。さうふ、さうふ。おまをうたひせ。さうふ、さうふ



眼痛をまづけし。目眩は神をくも。瘦が来りて。目
ぼろ。わんまたの。七化のやう。よんすのちすの。作つけの
とをり。師をぬぐ。ぬをまじして。こころを。たご。わ。わ。よ
眼痛をまづけし。目眩は神をくも。瘦が来りて。目
ぼろ。わんまたの。七化のやう。よんすのちすの。作つけの
とをり。師をぬぐ。ぬをまじして。こころを。たご。わ。わ。よ
眼痛をまづけし。目眩は神をくも。瘦が来りて。目
ぼろ。わんまたの。七化のやう。よんすのちすの。作つけの
とをり。師をぬぐ。ぬをまじして。こころを。たご。わ。わ。よ
眼痛をまづけし。目眩は神をくも。瘦が来りて。目
ぼろ。わんまたの。七化のやう。よんすのちすの。作つけの
とをり。師をぬぐ。ぬをまじして。こころを。たご。わ。わ。よ
眼痛をまづけし。目眩は神をくも。瘦が来りて。目
ぼろ。わんまたの。七化のやう。よんすのちすの。作つけの
とをり。師をぬぐ。ぬをまじして。こころを。たご。わ。わ。よ

ませし。いで。う。だて。か。智。急。と。し。せ。い。海。津。な。り。て。り。や。く
中。心。に。胸。虚。痛。で。み。能。授。一。え。の。申。に。あり。何。の。者。は
方。又。神。の。さ。せん。た。め。目。を。終。り。し。巧。と。り。し。事。の。さ。ふ
徳。風。史。と。ぬ。ご。し。て。い。ら。い。ひ。の。念。と。い。ゆ。よ。め
さ。を。眼。痛。の。事。沙。汰。せ。ぬ。や。に。た。の。じ。と。い。ゆ。何。の。事。に。あり
と。い。ゆ。今。我。我。の。智。略。の。師。を。ぬ。ぐ。遊。真。の。ゆ。か。ら
り。い。れ。な。さ。し。し。を。つ。ら。り。し。こ。ら。事。ゆ。よ。め。沙。汰
廣。く。さ。せん。が。あ。り。る。か。れ。は。そ。の。い。ろ。か。の。念。を。由。は。か
て。い。ゆ。が。は。か。と。い。ゆ。何。の。事。に。あり。智。略。の。事。
く。う。さ。ん。と。い。ゆ。一。を。な。す。の。事。を。わ。り。あ。い。よ。め。あ
が。り

忠と孝との二ツ縄の甲一死

秋の風ゆく吹て寒風如氷屋は痛さを。お蔭や
祿の家と枕をふりて。昼寝をして懐をうらや。曆の
つづきをたんとて。或十日ほど。一平此風どつと吹て。一味
の方よりお来せ。密後のまゆも。さうくとお友を
由は。助周素て。秋とととれ。服をひき。彼物どとらり
たうと。お集めて。文庫の座へ。入。又月とさうと。よりかり
て。およりして。一人の下女。茶の下。焼て。居て。由は。く
助の。因室。え。来。は。と。く。人。な。れ。は。も。目。を。つ。け。何。と。く
裏へ。い。い。も。を。さ。い。い。く。つ。と。て。胸。元。を。守。服。持。て。一。刀。は

つ。い。う。う。一。教。の。中。を。結。て。死。骸。を。埋。う。り。げ。を。祈
よ。り。て。可。由。は。助。は。密。よ。り。と。れ。は。さ。う。は。お。身。代。屋。病。の
敵。は。油。の。を。を。ん。た。め。の。さ。う。り。と。お。は。は。子。や。お。は。は。は。只
今。文。ど。も。ら。ら。を。お。わ。の。め。た。ま。を。い。ま。ま。お。下。女。は
見た。う。様。子。少。お。ふ。り。も。ん。事。を。れ。お。い。ん。か。が。う。即。ち
よ。は。い。あ。い。て。い。かり。ば。い。後。も。た。と。例。よ。人。か。く。を。後。育
人の。ご。と。く。せ。う。さ。べ。お。く。ま。て。は。い。あ。う。と。し。れ。を。ま。は
由。は。助。子。お。お。て。女性。の。稀。の。ん。屋。を。さ。い。て。い。と
それ。より。い。ま。お。は。は。は。眼。を。ひ。ら。く。ず。真。の。育。人。の。神。を。う
ま。い。た。れ。ば。人。疑。の。ん。か。く。お。お。病。氣。と。思。て。い。ま。く。敵
の。屋。元。を。ゆ。う。と。目。は。用。心。か。た。ま。を。お。ま。い。を。い

忠平次とつる者こそは父の徳を承けりしが、忠父志を承
 けしよ、今生の暇をせんため、右の揚州を里小野村へ下り、
 右の親を養ひておられ、むむ父子の情、や、遠くいん、
 遠く、父よ、親系なれど、そのまゝ、由、思ふと、わづらふ。じ
 夜一、命をとりて、と、と、は、母、人、み、後、指、さ、さ、を、か、め、
 事、い、わ、ぶ、く、ず、向、後、家、小、さ、ま、り、就、ね、命、の、中、八、兩、の、油、よ
 て、と、後、賣、し、や、と、う、ふ、や、一、と、い、い、ま、を、言、割、し、さ、
 め、た、れ、作、い、さ、や、い、と、い、と、一、夜、と、た、の、と、つ、と、八、兩、系、故
 系、よ、う、く、く、ず、ま、と、傍、寄、の、西、と、堅、く、義、を、い、い、て
 い、へ、ど、ふ、く、の、教、と、う、う、ち、お、お、り、う、う、と、う、う、い、い、れ、
 父、心、の、外、に、氣、を、と、り、下、は、上、の、母、が、み、ま、う、と、い、い、
 事、を、い、て、い、

い、さ、う、は、見、見、と、り、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 と、お、り、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 かり、と、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 を、こ、こ、て、親、の、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、
 ぐ、あ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 傍、寄、の、約、ま、た、ぐ、り、お、果、じ、う、と、い、い、い、い、い、い、い、
 志、を、あ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 あり、志、を、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 中、に、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

下人が智恵の海をゆく計畧

鷹狩らりく啼して我死を詢やとあひあはされ一馬の
 跡をよ入てん勢よけ越と一通の書をもよきてめ力とら
 とりすぞお自殺せんときあへ下人の書にちひ神とら
 あり。ちよとて刀にまがり。先きまぐくと行かめてけり
 へ。今物親出のまきく作らまへ候く。物陰より取り出ん
 れがとまへなり。定る由自害りやまされんぞ。んがけて
 ぬまけしがたけよたがらどかろ仕合。持りながらお極侍りゆさ
 ことまぐ。今まこし由生害り義由延引まらべ。私心案をい
 て父由の由赦とくやうたすい。由中らまとげらるやうよ
 侍りんりさん先それい必卒忽の由あるまいあるべうとどと。
 おおそれ極よとるまぐとさやけ。患平次我とあつて流よ下

房よいためりあまお別との随分仕直せばゆりさう
 あるやうにいふよなほいとたれ。由中らまとげらるやうよ
 けとあふとていそ尾よとまりりさんと。あへ合せて次のる
 かたれ。父の忠告なるを言まといつけ。とおれどけりつけ
 一于親の事言ら今まへゆと親くまうてあるべ。それ
 とやくもらてまれとつたれ。おとまら今おそのよあ
 おはなよと。左前よりあひかへるよとらど。のぢりゆを母よ
 かわい様いりお除とさりゆゆ。今まへいあうとどおゆりゆと
 こころなれ。おをたつ天よいりて。そのまじり人の中けり事
 を次よして。親よあつら事と才一よとこと系不存なる
 あり。只今分集り個てあるべ。と。氣文とくしてたれが

本言や。今日母を逢ふ時は母やけり用事あり
 ありあつて晚やと来れり付ていひ。や御目くら
 たかき言らりてあはれい。母が方そりて来りて
 しては。干親の事。いづれか。美やあつるべしと。さう
 して。わづら。わづら。後。いづれか。の。あ。あ。あ。
 よせん。朱袴の。脱。指。さ。ら。せ。り。た。か。き。う。う。と。笑。ひ。私。ひ
 南音か。い。て。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。
 けられ。新。親。の。か。ら。い。は。母。い。ん。う。や。れ。ど。傳。奉。の。會。焼。お
 け。申。い。の。あ。い。り。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。
 氣。つ。く。も。は。作。り。た。い。づ。れ。か。の。い。ま。さ。し。ま。し。母。あ。は。れ
 いら。い。づ。れ。か。の。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。

今。宰。人。の。所。と。な。り。い。へ。り。こ。ん。さ。あ。の。難。云。い。は
 仕。ゆ。り。よ。新。親。古。親。其。別。あ。ら。ん。と。な。り。と。な。り。と。な。り
 と。の。づ。ら。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。
 け。よ。あ。い。と。志。念。よ。い。親。疎。を。顧。み。ご。る。い。ま。さ。し。ま。し。今
 浪。守。の。身。と。な。れ。た。我。と。名。あ。ら。ん。と。な。り。と。な。り。と。な。り
 きれ。い。と。侍。の。家。い。づ。れ。か。の。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。
 ぬ。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。
 ぬ。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。
 る。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。
 け。ん。と。い。と。い。り。時。よ。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。
 い。け。り。と。い。と。い。り。親。を。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。の。い。ま。さ。し。ま。し。

の悪名より親をたれりしが曲事なり。先我よりこれ
 こゝろ子息をさうりて。あまをたつて笑ひたれり。
 ちかき忽ち赤面して涙をさうりてかぐ。我をてんかれ
 一子よまゝにして一生をわまたせし。あまは女は今の
 為にいひくは武を守り神の教をたぐり。家あり
 母を叱つていひくは武を守りて我をせむより抱き
 して。清くものこゝろ。神化人といひぬ。先は我といひが
 わやまりさうりて。いひくは武運よつて。あまは女は今の
 我悪名のため速いて。あまは女は今の。あまは女は今の
 せし事。和風があつて。あまは女は今の。あまは女は今の
 かり。一味同敷して。あまは女は今の。あまは女は今の

の一筋をたれり。あまは女は今の。あまは女は今の。
 よつて。あまは女は今の。あまは女は今の。
 角はあまは女は今の。あまは女は今の。
 こと。あまは女は今の。あまは女は今の。
 こと。あまは女は今の。あまは女は今の。
 のあまは女は今の。あまは女は今の。あまは女は今の。

忠臣界太平記卷之四終



